

解 答

1 (A)	2 (C)	3 (D)	4 (A)	5 (B)	6 (D)
7 (A)	8 (A)	9 (B)	10 (A)	11 (B)	12 (D)
13 (D)	14 (A)	15 (D)	16 (A)	17 (A)	18 (B)
19 (C)	20 (C)				

1. 「四六時中仕事のことを考えますか？仕事の要求をはるかに超えて長い時間働きますか？」
 ▶ beyond the requirements で「要求を超えて」の意。(B)far more「はるかに多く」は定冠詞 the の前には置けない。
 (C)away や(D)ahead は副詞なので the requirements という目的語はとれない。

2. 「すべての外国人学生は、学校に到着したらすぐに学生課へ出向くべきだ」
 ▶ 選択肢は(C)を除いて接続詞である。空欄のあとは名詞句なので、前置詞である (C)upon が正解。upon their arrival at school は as soon as they arrive at school の名詞構文で「学校に到着したらすぐに」の意。
 □ on[upon]+[動名詞または動作を示す名詞]「～と同時に、～するとすぐ」

On getting home, I phoned Mike.
 (家に着くとすぐに、私はマイクに電話した。)

3. 「提案に目を通して、ジョンは、何も変更する必要はないと決定した」
 ▶ 選択肢はすべて助動詞 have の変化した形である。主節の時制が decided と過去形であるので、前半の() looked は過去完了形で付帯状況をあらわしていると推測できる。When he had looked through the proposal を分詞構文で書くと Having looked through the proposal となる。

『付帯状況』を表す分詞構文

分詞構文ではこの用法が最も多い。次の2種類がある。

- (1) 同時状況「～しながら」→接続詞を用いて書き換えられない

He had breakfast, **reading** the newspaper.
 (彼は新聞を読みながら朝食をとった。)

- (2) 動作の連続

「～して、そして(…する)」〔主節の動作の前〕

Taking out a key from his bag, he opened the box.
 (かばんからカギを取り出して、彼はその箱を開けた。)

「(…して、)そして～する」〔主節の動作の後〕

This bus starts soon, **arriving**(= and arrives) at Kyoto at noon.
 (このバスは間もなく出発し、京都に正午に着きます。)

4. 「どうしよう！列車の運行が今朝また遅れてるね」
 ▶ The train's running ... = The train is running ...である。be 動詞の肯定文につける付加疑問なので isn't it?となる(A)が正解である。

■肯定文+否定の付加疑問？

肯定文には否定の付加疑問をつける。付加疑問の S(主語)は必ず代名詞に変えること。

[例] Our task is to finish the work within a couple of hours, isn't it?
 (私たちの任務は 2,3 時間以内にこの仕事を終えることですね。)

5. 「毎年 1 月に、私の友達は同窓会のために集まる」
 ▶ 月名の前につける前置詞は in である。時に関する in はある期間の中を表す。
 [例] I first visited Germany *in* 1991.

(私は 1991 年に初めてドイツを訪れた。)

in August「8 月に」、**in** winter「冬に」、**in** 2015「2015 年に」、

in the morning[the afternoon / the evening]「午前[午後/夕方]に」

6. 「外出している間スカーフと帽子を着用していたのに、私はそれでも風邪をひいた」

- ▶ (A)despite(= in spite of ~)は前置詞なので後には名詞がくる。(B)even と (C)however は副詞なので節を従えることはできない。(D)although は譲歩を表す接続詞なので後には節[S+V]が続く。

[例] He came to the party **despite** his illness.

名 詞

= **Although[Though]** he was ill, he came to the party.

節

(彼は病気にもかかわらずパーティーにやってきた。)

7. 「私は時間がある昨日、美容院へ行くべきだった」

- ▶ have the time で「時間がある/手が空いている」という表現である。(A)が正解。(C)a time は「ひと時」という意味。(D)another time「また今度、この次に」。

[例] I will come if I *have the time*.

(時間があれば参ります。)

We *had a lovely time*.

(楽しいひと時でした。)

□ **should[ought to] have done** 「～すべきだったのに」

- ▶ 『義務』の意味を表す should/ought to 「～すべきだ」に完了形がつくと「～すべきだったのに(実際はしなかった)」という『過去のことに対する非難・後悔』などの気持ちを表す。

You *should have taken* some medicine.

(あなたは薬を飲んでおくべきだったのに。)

8. 「陪審員団は、内輪での結論に達するのに長い時間を要した」

- ▶ 選択肢は(D)all を除いて、すべて前置詞である。空欄のあとの themselves とは the jury であるから、「(3つ以上の)複数の個体に囲まれている」ニュアンスのある(A)among が最もふさわしい。

□ **among themselves** 「内輪で/お互いの間で」

They discussed it *among themselves*.

(彼らは彼らどうしでそのことを議論した。)

9. 「他の語学力のすべてと同様に、読むことには多くの実践が必要である」

- ▶ 3つ以上のものから一部を除いた「残り全部の～」という意味を表す場合、other ではなく、the other を形容詞として用いる。

[例] Tom was in the classroom but **the other students** were playing outside.

(トムは教室にいたが、他の生徒たちは外で遊んでいた。)

10. 「顧客が健康な環境の中で食事ができるように、ニューヨークのレストランでは喫煙は許可されていない」

- ▶ so that S can do は目的を表す表現で「S が～するために/S が～するように」の意である。(B)が in order to ではなく in order that であれば正しい。

□ **so that S can[will/may]** ~ 「S が～するために/S が～するように」

- ▶ can と will は口語調、may は改まった言い方に用いられる。口語では that が省略されることも多い。

Let's take an express train *so that we can* get there 20 minutes earlier.

(そこへ20分早く着けるように急行電車に乗ろう。)

- ▶ in order that S can[will/may] ~でも同じ意味を表すが、堅い表現である。この場合、that は省略できない。

11. 「このセミナーの目的はコンピューター・システムを使用する方法に関して新しいスタッフを教育することである」

- ▶ 選択肢の意味は、(A)tell「告げる」、(B)educate「教育する」、(C)demonstrate「実証する」、(D)show「見せる」である。(B)以外では意味をなさない。

12. 「話題から離れてしまっています。さっき話していた話題に戻りませんか？」

- ▶ 選択肢の意味は、(A)back「戻って」、(B)start「始める」、(C)review「見直す」、(D)return「戻る」である。(D)以外では意味をなさない。backは副詞であって動詞ではない。
13. 「あなたが、私があなただの机に置いておいた報告書を調べる時間を見出せることを望みません」
- ▶ I hope (that) ~で「～であればよいと思う」という表現である。(B)、(C)はthat節を目的語にはとれない。(A)は文意に合わない。
- I hope (that) ~ 「(望ましいことを予想して)～と思う」
- I hope (that) you will give us some advice.
(私たちに何か助言をいただければと考えております。)
- ▶ 望ましくないことを予想する場合は I'm afraid ~.
- He was afraid (that) he might hurt her feelings.
(彼は彼女の感情を傷つけるのではないかと不安に思った。)
- look over ~ 「(書類など)にざっと目を通す/～を見渡す」 (= check)
- I always look over my homework before I turn it in.
(私は提出前にいつも宿題にざっと目を通す。)
14. 「2言語を話せることは、仕事を探すとき、他者に対する明らかな利点を与えてくれるだろう」
- ▶ advantage over ~で「～より有利な点、強み」という表現である。
- [例] He has an *advantage over* us in volleyball because he is much taller.
(彼はずっと背が高いためバレーボールでは我々より有利だ。)
- 他の選択肢、(B)merit「長所」、(C)improvement「改善(点)」、(D)help「助け」も似たような意味であるが、空欄に続く *over others*「他者より」という表現に最もふさわしいのは、(A)advantage「強み、有利な点」である。
15. 「英語に対するあなたの関心を考えると、大学でそれを研究するようにあなたに助言いたします」
- ▶ 選択肢はすべて分詞であるから、主節の文意に沿う分詞構文となるものを選ぶと、(D)Givenが最適である。(A)ConsiderdはConsideringであれば可。
- Given ~ 「～を考慮に入れると」 (= considering ~)
- Given the fact that I was tired, I managed to play the piano pretty well.
(疲れていたという事実を考慮すれば、私はなんとかかなり上手にピアノを弾いた。)
- ▶ givenは前置詞または接続詞の働きをする慣用的な分詞構文。～には句もthat節もくる。
- considering ~ 「 \square ～であることを考えれば/ \square ～のわりには(=for)」
- He looks young, *considering* his age.
(彼は年のわりには若く見える。)
16. 「夏はエアコンをおおいに使用するので、電力消費量が急激に上昇する」
- ▶ electricity consumptionで「電力消費(量)」という意である。他の選択肢の意味は、(B)quantity「量」、(C)measurement「測定」、(D)amount「量」という意味である。
17. 「知らない言葉の意味を調べるために辞書を参照しなさい」
- ▶ 空欄の直後に目的語となるthe dictionaryがあるので、他動詞である(D)searchは不適。(A)refer to ~「～を参照する」、(B)look to ~「～に目をやる」、(C)see to ~「～の世話をする/～に気を配る」の中で文意に相応しいのは(A)である。
- refer to ~ 「～を参照する」 (= consult ~)
- While in England, I often *refer to* the guidebook.
▶ refer to ~には「～に言及する」の意味もあるので注意。
We agreed never to *refer to* the matter again.
(我々はその問題に2度と触れないことに同意した。)

■ 『辞書』に関するその他の表現

- look up in[consult] a dictionary 「辞書を引く」
- look up a word in a dictionary 「辞書で単語を引く」
- consult a dictionary for the spelling 「単語の綴りを辞書で調べる」

18. 「富士山に登った翌日、リチャードの脚は痛かった」

- ▶ (B)sore は形容詞で, A be sore「A が痛い」の意。(A)ache は自動詞で「痛む」, (C)pain は他動詞で「～に苦痛を与える」, (D)hurtful は形容詞で「害になる」。

[例] My legs were really *sore* after aerobics last week.

(先週のエアロビクスの後, 脚が本当に痛かった。)

My legs *ache* [are aching] from sitting for a long time.

(長い間座っていたので脚が痛い。)

My knee *pains* [hurts] me.

(膝が痛い。)

Smoking is *hurtful* to the health.

(喫煙は健康に良くない。)

19. 「ほとんどの人が定期的な運動の必要性を理解しているにもかかわらず、ほとんどの大人がとうてい十分にはやっていない」

- ▶ the necessity of regular exercise は Regular exercise is necessary.「定期的な運動は必要である」の名詞構文である。その他の選択肢の意味は, (A)activity「活動」, (B)appreciation「正しい理解」, (D)desire「願望」。

- even though ~ 「～ではあるが」

Even though I've been acting for years, I still get a thrill out of going on stage.

(何年も役者をやっているが、舞台に出るのは今でもわくわくする。)

even if と even though[^xeven although]の使い分け

- even if 「たとえ～でも」——後ろに仮定的な事柄が来ることが多い。

- even though 「～ではあるが」——後ろに事実が来ることが多い。

cf. { **Even if**[^xEven though] it rains, we're going to the beach.
(たとえ雨が降っても海へ行くつもりだ。)
Even though[^xEven if] it was raining, we (still) went to the beach.
(雨が降っていたが(それでも)海へ行った。)

20. 「マリと彼女の姉(妹)は本当に一卵性双生児だ。私は、彼女ら 2 人を識別することができない」

- ▶ 選択肢の中で, between につながるのは(C)だけである。distinguish between ~ で「～の間を識別する」の意。(A)indicate「～を指摘する」, (B)recognize「～を見分ける, 識別する」, (D)identify「～を特定する」。

- distinguish[tell/konw] A from B 「A と B を見分ける/A と B を区別する」

(= distinguish between A and B)

He could not *distinguish* silk from cotton.

= He couldn't **distinguish between** silk and cotton.

= He couldn't **tell** silk **from** cotton.

= He didn't[^xcouldn't] **know** silk **from** cotton.

(彼は絹と綿を区別できなかった。)